

認知症の人とその家族を救えるのは

あなたかもしれません 認知症サポーター養成講座

「認知症の人の気持ち
が理解できるように、
普通の接客以上に丁寧
で分かりやすい対応を
心掛けています」



本店営業部
田原綾子さん

認知症の人にやさしい企業へ しまなみ信用金庫

しまなみ信用金庫では現在、全職員の約85%が認知症サポーター養成講座を受講し、地域社会への貢献、金融機関として利用者の財産を守る業務の一環として、認知症の人とその家族を支援する取り組みを続けています。

同金庫は平成22年から、組織をあげて職場でのサポーター養成に取り組み始めました。現在では講座を新人研修のメニューに組み入れ、認知症を正しく理解できる職員の育成を進めています。

また、市内にある全7店舗が、市の「認知症の人にもやさしいお店」に登録されています。



若い私たちにもできること 県立総合技術高等学校

総合技術高校では、授業の中で認知症サポーター養成講座を受講しています。

10月20日、人間福祉科の3年生39人が講座を受講しました。保育や介護など福祉分野の進路を希望する生徒たちは、認知症について正しく理解しようと、真剣に講座を受けました。

介護する家族の気持ちを綴ったビデオを見て、涙ぐむ生徒の姿も見られました。

「認知症の人も私たちと同じ感情があります。誰でも“笑顔のもと”になれるので、私も誰かの“笑顔のもと”になりたいです」



人間福祉科3年
平田杏奈さん



人間福祉科3年
是安香歩さん

「忘れてしまうという恐怖と闘う人を支えることも必要ですが、家族への精神的なサポートも大切だと改めて考えました」

市をあげた取り組み が進んでいます

延べ8936人。市の人口の約11人に1人に当たるこの人数は、昨年度までに市内で認知症サポーターを養成する講座を受けた人の数です。

認知症サポーターとは、認知症を正しく理解し、認知症の人やその家族を温かく見守る応援者のことです。友人や家族に講

座で学んだことを伝える、本人や家族の気持ちを少しでも理解するよう努めるなど、取り組み



は人それぞれ。受講者はできる範囲で活動を続けています。講座は、専門の研修を受けた講師と市が協働で実施しています。内容は、認知症についての基礎知識とサポーターとして何ができるかなど。受講した人には、支援者の証しとしてオレンジ色のブレスレットを着けてもらい、サポーターがいる店舗や事業所は「認知症の人にもやさしいお店」として登録しています。

市では平成19年度から講座を開始し、目標を上回るペースでサポーターが増えていきます。認知症の人を見守る大きなオレンジ色の輪が、まちを優しく包んでいます。10人以上の団体から申し込みがあれば、無料で講師を派遣しています。開催を希望する月の1カ月前までに、高齢者福祉課（☎0848・676055）まで問い合わせてください。